

## ぶらり旧温泉街散歩「三代藩主津軽信義の足跡と温泉食文化を探る」

\* 散歩マップはご宿泊の際に当館で配布致します

今から 400 年近く前 温泉好きの三代藩主「津軽信義」は大鰐に御仮屋を建て晩年の 3 年間の大半は御仮屋で過ごしたという記録があります 御仮屋の場所は現在の中橋から紅葉館という旅館の付近 その信義の湯治の際に必ず献上されたのが温泉熱で栽培された大鰐温泉もやしや七草との事ですが当時はその一帯の土を 30 センチくらい掘れば温泉が湧き出た所も有ったと言われ 温泉と共に大鰐の町が形成され食文化も育んできたという事が創造できます。



弘前藩 3 代藩主「津軽信義」= 2 代藩主津軽信枚と石田三成の三女で豊臣秀吉正室の高台院の養女となった辰姫の長男、大鰐には「満（マテ）姫」と言う側室がいたという事です

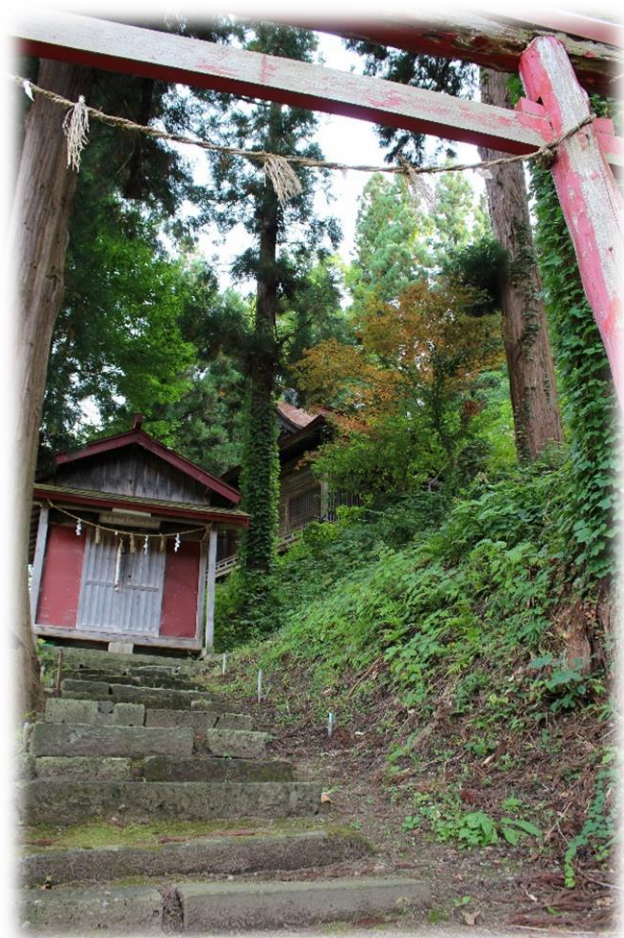


**【湯魂石薬師堂】** 弘前藩初代「津軽為信」が眼病を患い 薬師如来のお告げによりここから湧き出る温泉で目を洗ったら病が治ったという 大鰐の温泉発祥の伝説の場所  
(もう一つは 800 年以上前の円智上人がヤマニ仙遊館となりの大湯会館の場所で発見した説もあります)



**【国重要文化財阿弥陀如来像もある大円寺】**

信仰心の厚い信義は、大日堂を湯治中に 現在の旧蔵館小学校付近から神木と言われる「萩桂」の近く 平川を挟んで御仮屋から見える今の場所に遷座建立している。平川は大雨による氾濫が多いため信義が当時に来るときにその都度橋が架けられたのが今の「中の橋」です



**【パワースポットとして今も密かに神社ファンが訪れる 羽黒神社と稲荷宮】**

信義が参勤交代で江戸からの帰り 他勢に攻められるという噂があったため 東京浅草の稲荷宮に「無難に国元に着けば稲荷宮を建立する」と約束しその後無事に津軽に帰る事が出来ました しかし多忙な信義は約束を守らずにいたのですが大鰐に湯治に来た時に夢中枕もとに白狐が現れ「貴方が国元で稲荷宮を建立すると約束したから御供をして津軽に来たが建立しないので居場所が無く困ってる」と話したため直ぐに信義は羽黒神社脇に稲荷社を建立した（1652年）と言う大鰐白狐稲荷伝説があります。（羽黒宮も前年の1651年 信義が現大鰐小学校グラウンド付近から新たに建立）



羽黒神社に上ると階段から真っすぐ延びて マルシチ味噌醤油工場や青柳橋・ヤマニ仙遊館横の道路が続きます 当時から神社を起点に大鰐の街並みが形成されてきた事がわかります



**【古来から伝わる温泉もやし小屋】**（外観撮影 OK 中は立入禁止 見学は出来ません）

昔は土を深く掘れば掘るほど温泉があったそうです、現存する某客車の温泉（現在は廃業）2M 深く温泉湯壺を掘った場所も近くににあります。

現在一か所だけ残る現役のもやし小屋です 大鱈温泉もやしは水耕栽培の普通のもやしと違い温泉熱を利用した土耕栽培なので独特の風味があります、この小屋はオフシーズン（夏）は屋根板を外し土を日光浴させ消毒兼ねて養分を蓄えオンシーズンに備える、シーズン中（冬期）は小屋の隙間に藁を詰めて温度管理をする これが古来から伝わる先人の知恵です。



**【マルシチ津軽味噌醤油】**

1910 年（明治 43 年）12 月に創業された日本で唯一、温泉熱を利用した伝統の製法の工場 ここも残念ですが中は見学出来ません 7、人で始めたから「マル七」と言われています



【大正期 遊郭や歓楽街を開発した平川市の豪農「外川平八」別荘湯殿と思われる廃墟】

\* 個人所有地のため立ち入り禁止

明治 40 年 3 月の新聞記事によると

1 日に湯治客が 800 人、日帰り入浴客が 200 人ご利用されていたそうです。これが春の行楽シーズンだと推定 1 日 3000 人のご利用と考えられ、1 人 1 日 50 銭を消費するとしたら 毎日 1,500 円が地域で消費された事になります。

\* 当時の 1 円が今の価値で 3800 円と言われるので今に換算すると繁忙期には 1 日 570 万円が温泉街で消費されていた、その繁栄にあやかろうと方々から温泉を掘削して湯屋を営もうとする人たちが増えた時代がありました。

## 大鰐温泉の最盛期 明治後半～大正期の図

### 圖景眞場泉温館蔵及鰐大縣森青

